

## <患者プライバシー保護に関する指針>

機密性の保持と個々人のプライバシーを擁護することは、すべての研究の営みについて重要である。対象が、不快に感じる場合には、直ぐに中止できるように、研究のための説明文や調査紙等の表紙に明示する。また、データが、どのように使われるかに関する情報を提示（写真、オーディオおよびビデオの録音など・・・）する。またその際の機密性の限界についても説明し、理解を得る。さらに、その同意を確保する。

01. 患者・利用者個人を特定可能な氏名、入院番号、イニシャルまたは呼び名を記載しない。また、年齢については、検討上必要がある場合を除き、大まかな記載にとどめる。（70歳代後半など）。
02. 患者の職業は治療の目標や計画の検討に必要となることが多いので、必要に応じ個人が特定できない範囲で記載することを可とする（主婦、自営業、会社員など）。
03. 患者の住所は原則として記載しない。ただし、それが検討に不可欠な情報となる場合（疾患の発生場所が病態や機能予後に関与する、居住地が治療の目標や計画の検討に不可欠であるなど）は、区域までに限定して記載することを可とする。（〇〇県、××市など）。
04. 他の情報と診療科名を照合することにより患者が特定されうる場合、診療科名は記載しない。
05. すでに他院などで診断・治療を受けている場合、その施設名ならびに所在地を記載しない。ただし、救急医療や在宅医療等で元の施設の記載が検討上不可欠となる場合は、この限りではない。
06. 日付は、臨床経過を知る上で必要となることが多いので、個人が特定できないと判断される場合は年月までを記載してよい。また、経過についても具体的な日付は入れず、「発症後（術後）〇週」などと記載する。
07. 患者・利用者の写真を提示する際には顔あるいは目を隠す。眼疾患の場合は、顔全体が分からないように眼球のみの拡大写真とする。
08. 画像や検査情報に含まれる氏名、番号等は削除する。

09. 以上の配慮をしても個人が特定化される可能性のある場合は、発表に関する同意を患者・利用者自身（またはその遺族か代理人、小児では保護者）から得ること。

以上を遵守したうえで発表において使用する画像の著作権、肖像権については、各筆頭演者の責任において取り扱うこと。

著作権、肖像権の使用について許可が得られていない使用は禁止する。使用した場合、また使用が発覚した場合の対応は当学会では責任を負わない。

学会において使用されている画像等の無断複製、転載は固く禁ずる。

10. 発表等における知的財産権の扱いには十分な配慮を持った対応を行うこと。  
知的財産を侵害するトラブル等があった場合、当学会では責任を負わない。

以上

（令和 4 年 11 月 25 日改訂）